



「分かり合えない・理解できない人と、何とか仲良くやっていくためにはどうすればいいのか？」の最終回です。前回までに様々な意見を見てきました。どれも重要なポイントだと思いましたが、それでも理解できなかった場合はどうしましょう？今回のスタートはここからです。

- ① 無理して仲良くしようとはせず、ちょうど良いくらいの距離を保つことが大切だと思った。



- ② 分かり合えないときは、少しの間距離をとってから自分の気持ちを落ち着けることで、自分が相手にしてしまったことなどがよくわかると思います。距離をとってから話し、互いの悪かった所が分かり、自然と分かり合うことができると思います。

分かり合えない人に対しては、どうしても「何でわからないんだ！」という怒りや悲しみがわいてきてしまうことがよくあります。特に自分が親しくしたい人に対してはそうですね。

そんな時、ちょっとその人と距離を置いて、冷静になる。そうすると今まで見えていなかった様々なこと(相手の良さや、立場、自分の考え方や言動)が見えてくることがあります。

じゃあ、距離をとっている間は、どうすればいいんでしょう？

- ③ 人それぞれ性格が違うから、合う合わないは絶対あるけど、その人だけ無視をしたり、態度を変えるのは違うのではないかと思う。

- ④ 「ごめんなさい」や「ありがとう」など、挨拶はちゃんとやるべきだと思う。



⑤ 理解はできた方がいいけど、「仲良く」は無理しなくていいと思います。ただ、相手のことを否定しなければ（面と向かって言わなければ←陰口も含む）傷つくことも少なくなるのかなと思います。



⑥ 分かり合えない人が話しかけてきても、無視せずに話すことは大切だと思った。

⑦ 相手の気持ちを考えて発言・行動し、困っていたら 助けるなどの思いやりをもつことが大事だと思う。逆に助けてもらったら「ありがとう」、ミスをしてしまったら「ごめん」を言う。

「当たり前のことばかりだなあ」と思った人、多いと思います。でも、前にも書いたように、「分かり合えない」人を前にしたとき、人は怒りや悲しみの気持ちをもってしまい、当たり前ことができなくなってしまうことがよくあります。そんな気持ちをもってしまふことは、ある意味、しょうがないことかもしれません。でも、その気持ちから、差別や暴力、いじめなど人を傷つけ、心を踏みにじるような行為を取ることは許されることではありません。それを防ぐためにも、皆さんが寄せてくれた様々な意見を、ぜひ今後^に活かしてほしいと思います。

今回のREOプロジェクトはなかなか難しい内容だったかもしれませんね。3回の連載の最後に劇作家の鴻上尚史^{こうかみしやうじ}さんの言葉を記載します。皆さんはどう思いますか？機会があれば、また感想を聞かせてください。

“分かり合えないこと”を憎む^{にく}んじゃなくて、“分かり合えないこと”を“分かり合う”って思わないといけません。つまり分かり合えないと、つい僕たちは憎みあってしまったり対立したりするんだけど、“分かり合えないこと”を“分かり合う”^{ぜんてい}ってことを前提^{ぜんてい}に始まらないといけないと思う。

